

東北大学 正員 矢吹 瑠哉
東北大学 正員 倉西 茂

1 まえがき

本論文は2主桁鋼アーチの面内耐力を、側方荷重の影響を付加応力の形で考慮することにより求めた。従って変形の影響は面内変形のみ考慮している。微小荷重増分間では荷重と変形との関係は線形関係にあると仮定して求め、変形後のつり合いを満足するまで逐次近似計算法により変位を修正することにより変形の影響および変形に伴う部材剛性の変化の影響を計算している。

2 解析の基本式

解析は一般的に用いられる変形法をもとにして行った。要素内に貯えらるポテンシャルエネルギーの増分を次式の形で与える。

$$\Delta U = \int_0^l \sigma_0 \cdot \epsilon \, dA \, dx + \frac{1}{2} \int_0^l \Delta \sigma \cdot \epsilon \, dA \, dx \quad \text{ここに} \quad \begin{cases} \Delta \epsilon = -u' + v_0 + v' - y \cdot v'' + \frac{1}{2} \cdot v'^2 \\ \sigma = E(1 - \epsilon)(\sigma_0 - v'' y) \quad *1 \\ \epsilon = \frac{\sigma_0^2 / 2(1 + \nu) + \sigma_0^2}{9\sigma_0^2 / 2(1 + \nu) + \sigma_0^2} \end{cases} \quad \text{--- ①}$$

ここに σ_0 、 ϵ は前段階での直応力および剪断応力を示し、

側方荷重による変形量に応じた応力を初期応力として考慮する。

変位関数として次式を仮定し

$$u = d_1 + d_2 x, \quad v = d_3 + d_4 x + d_5 x^2 + d_6 x^3 \quad \text{--- ②}$$

①式に代入してまとめ、次式により部材剛性マトリックスを求める。

$$[K]_{ij} = \frac{\partial^2 U}{\partial \delta_i \partial \delta_j}, \quad (\delta: \text{節点変位増分}) \quad \text{--- ③}$$

3 側方荷重による変形量に応じた応力

側方の変形に対してはアーチ軸線は円弧に近似して取り扱う。

側方荷重による端モーメント M_A は次式で与えられる。^{*2}

$$M_A = m \cdot 8R^2 \quad \text{--- ④}$$

ここに m はアーチの面外剛性および幾何形状で決まる定数で、

円い断面の場合で $m = 0.10 \sim 0.15$ 程度の値である。アーチリブに傾く軸まわりの円弧による直応力 σ_u とわいり変形による直応力 σ_w および剪断応力 τ_c は次式で与えられる。

$$\begin{aligned} \sigma_u &= \pm \frac{8R^3}{A b \sin \alpha} \left[(1-m) \left\{ \sin(\alpha - \varphi) + \sin \varphi \right\} - \sin \alpha \right] \\ \sigma_w &= \pm \frac{8R^3}{A b} \left[C_1 (1-m) \left\{ \frac{\sin \mu(\alpha - \varphi) + \sin \mu \varphi}{\sin \mu \alpha} - \frac{\sin(\alpha - \varphi) + \sin \varphi}{\sin \alpha} \right\} + \right. \\ &\quad \left. C_2 \left\{ 1 - \frac{\sin \mu(\alpha - \varphi) + \sin \mu \varphi}{\sin \mu \alpha} + m \frac{\sin \mu(\alpha - \varphi) + \sin \mu \varphi}{\sin \mu \alpha} + \frac{(1-m) \left\{ \sin(\alpha - \varphi) + \sin \varphi \right\} - \sin \alpha}{\sin \alpha} \right\} \right] \\ \tau_c &= \pm \frac{8R^3 G}{A b} \left[G_1 (m-1) \left\{ \frac{\cos \mu(\alpha - \varphi) - \cos \mu \varphi}{\sin \mu \alpha} + \frac{\cos(\alpha - \varphi) - \cos \varphi}{\sin \alpha} \right\} + C_2 \left\{ y + \frac{\cos \mu(\alpha - \varphi) - \cos \mu \varphi}{\sin \mu \alpha} \right\} + \right. \\ &\quad \left. m \frac{\cos \mu \varphi - \cos \mu(\alpha - \varphi)}{\sin \mu \alpha} + \frac{(1-m) \left\{ \cos(\alpha - \varphi) - \cos \varphi \right\} - \varphi \sin \alpha}{\sin \alpha} - \frac{C_2 + \alpha}{2} \right] \end{aligned}$$

$$G = (1 + 4GJ_r / EA b^2 + 2/AR^2) / (I/R^4 + 4GJ_r / EA b^2), \quad C_2 = 1 + EA b^2 / 4GJ_r, \quad G_2 = GJ_r / EA$$

これらの応力を初期応力として取り扱うことにより計算は線形近似して行うことができる。図-2に面内半載、面外等分布荷重の載ったときの計算例を示す。《参考文献：*1 第30回講演概要集 I-74, *2 土木学会論文集 No. 73》

